

## 論文審査の要旨

報告番号	甲 第	号	氏 名	谷 川 友 紀
論文審査担当者	主査		浅 野 和 仁	
	副査		田 中 一 正	
	副査		下 司 映 一	
<p>我が国では 2013 年に総人口に占める 65 歳以上の割合が過去最高の 24.1%で、その死因として肺炎が第 3 位となり、肺炎による死因の 95%以上が高齢者であることが報告されている。また、高齢者肺炎の 70%以上が口腔内常在細菌による誤嚥性肺炎によることも報告され、誤嚥性肺炎を予防するための口腔ケアの重要性が示唆されている。口腔ケアが気道感染、インフルエンザ、人工呼吸器関連肺炎の予防に有効であるとされ、日常飲まれている飲料の口腔ケアへの転用が模索されているものの、日本茶等に含まれているカフェインの副作用である睡眠障害などが問題となっている。そこで学位申請者、谷川友紀は日常的に摂取され、カフェインを含有していないとされている 4 つの茶葉（オトギリソウ、山差子、ローズヒップ及びカモミール）を試料とし、これら茶葉の抗菌活性を調べた。</p> <p>上記茶葉 5g を 500ML の熱水に浸漬し、熱水抽出物を得、この抽出物の抗菌活性を 19 の細菌と 1 つの真菌を対象に平板希釈法で検討した。また、茶葉の成分を高速液クロマトグラフィー(HPLC)で分析した。</p> <p>上記茶葉の中で最も抗菌活性が強かったのはオトギリソウの熱水抽出物で、肺炎の原因菌を含む口腔細菌に対して優れた抗菌効果を示した。しかし、腸内常在細菌などの人体に有用な微生物叢に対しては抗菌活性を示さなかった。また、HPLC により有害作用があるとされるヒペリシンやカフェインの含有量を測定したところいずれも検出限界域以下であった。</p> <p>これらの結果はオトギリソウ熱水抽出物（オトギリソウ茶）が高齢者向けの肺炎予防の口腔ケアに利用できる可能性があることを示唆していることから、保健医療学の分野で価値があり、博士(保健医療学)の学位に相当すると判断した。</p>				